

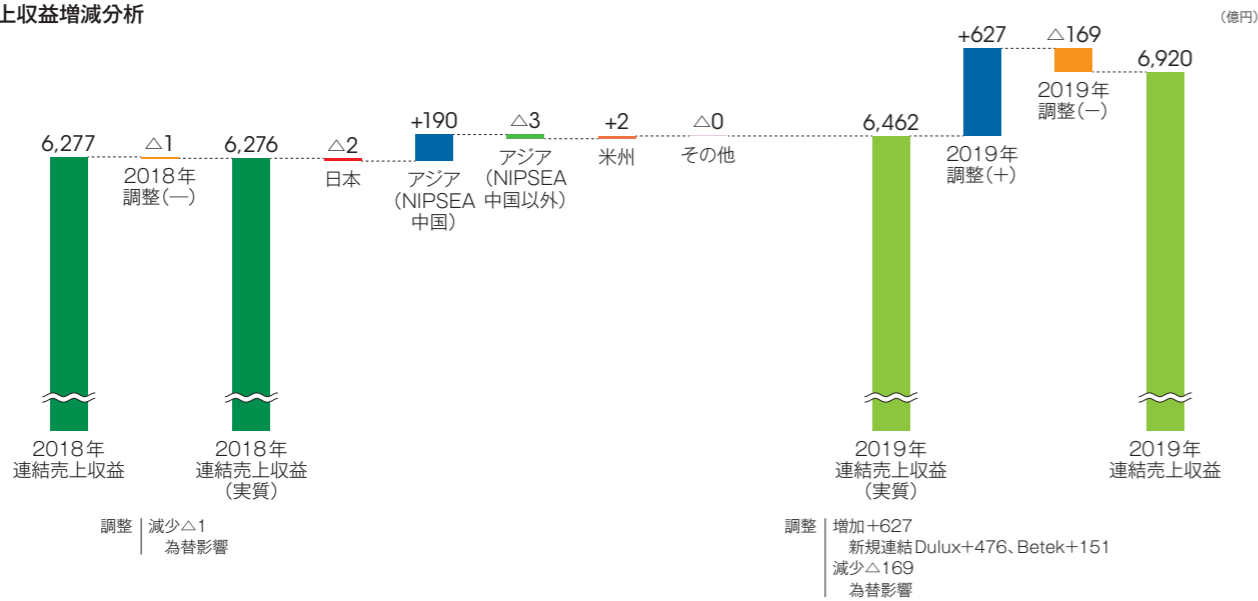
## 経営成績の分析

### 連結業績の概況

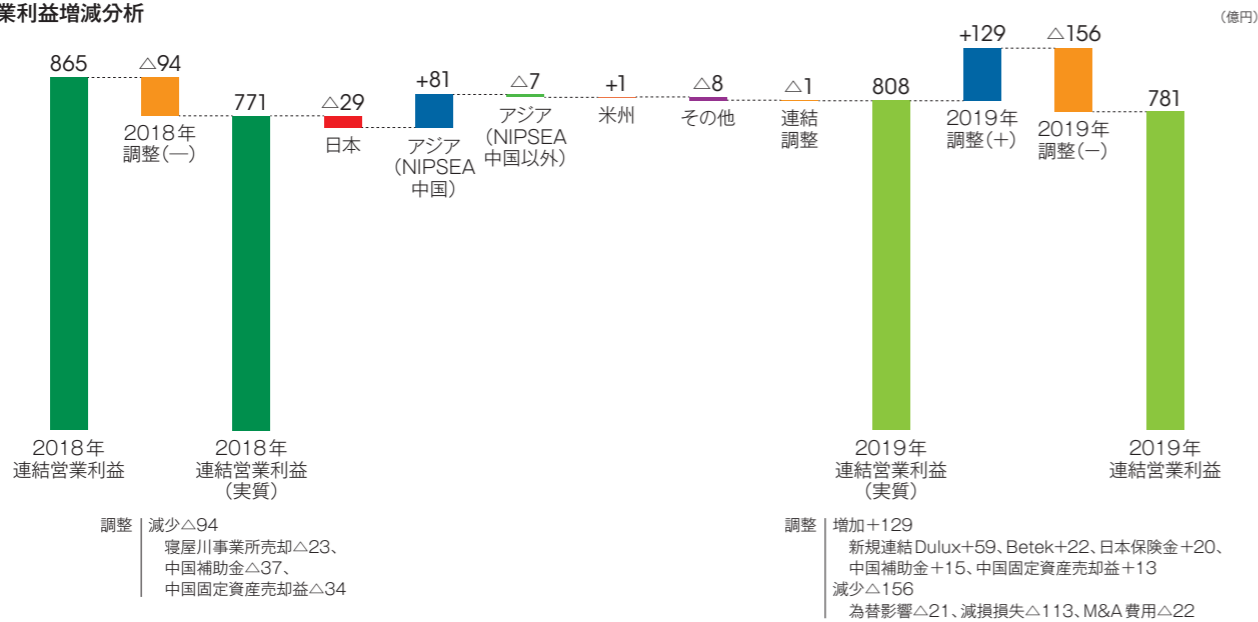
当社グループの2019年度の業績は、円高の影響があった一方、日本の汎用塗料・工業用塗料、および中国の汎用塗料が好調に推移、さらに豪州塗料メーカー DuluxGroup Limited およびトルコ塗料メーカー Betek Boya ve Kimya Sanayi Anonim Sirketiを連結子会社化したことにより、連結売上収益は6,920億9百万円(前期比10.3%増)となりました。連結営業利益は、中国で原材料価格が低位で推移し大幅な

増益となったものの、日本で企業買収に関連し株式取得関連費用を計上、欧州およびインド自動車用塗料事業において減損損失を計上したことから、780億60百万円(前期比9.8%減)となりました。連結税引前利益は795億18百万円(前期比10.7%減)、親会社の所有者に帰属する当期利益は367億17百万円(前期比19.0%減)となりました。実質ベースの増減要因は下図の通りです。

### 売上収益増減分析



### 営業利益増減分析



### 資産、負債および純資産の状況

2019年度末の総資産は2018年度末と比較して5,246億57百万円増加し、1兆4,786億46百万円となりました。流動資産については、2018年度末と比較して630億1百万円増加していますが、主な要因は、現金及び現金同等物が63億33百万円減少した一方で、営業債権及びその他の債権が335億75百万円、棚卸資産が270億52百万円増加したことなどによるものです。また、非流動資産については、2018年度末と比較して4,616億56百万円増加しています。主な要因は、IFRS第16号「リース」の適用に伴う有形固定資産329億74百万円の増加やDuluxGroup LimitedおよびBetek Boya ve Kimya Sanayi Anonim Sirketiの買収により、有形固定資産623億76百万円や無形資産1,337億26百万円およびのれん2,157億63百万円が増加したことなどによるものです。

負債については、2018年度末と比較して4,842億97百

万円増加し、7,906億67百万円となりましたが、主な要因は、DuluxGroup LimitedおよびBetek Boya ve Kimya Sanayi Anonim Sirketiの買収に伴う借入金3,208億52百万円の増加や新規会社の連結取込みに伴う負債の増加1,771億63百万円によるものです。

資本については、2018年度末と比較して403億60百万円増加し、6,879億79百万円となりました。主な要因は、為替換算調整勘定の増加や親会社の所有者に帰属する当期利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものです。以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は2018年度末の54.5%から37.4%となりました。さらに、DuluxGroup LimitedおよびBetek Boya ve Kimya Sanayi Anonim Sirketiの買収に伴うのれんの増加により、のれんの親会社所有者帰属持分に占める比率が39.2%から77.2%となりました。

### キャッシュ・フローの状況

#### キャッシュ・フローの状況

当期は営業活動により920億76百万円の収入、投資活動により3,527億69百万円の支出、財務活動により2,540億18百万円の収入があり、結果として現金及び現金同等物(以下「資金」という)は1,233億円となり、2018年度末と比較して63億33百万円減少しました。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による収入は、920億76百万円(前期比305億42百万円増)となりました。主な要因は、税引前利益に減価償却費及び償却費等の非資金支出費用等を加味したキャッシュ・フロー収入(運転資本の増減を除く)が1,131億12百万円あった一方で、運転資本の減少による資金の増加18億13百万円、法人税等の支払いなど228億49百万円あったことなどによるものです。

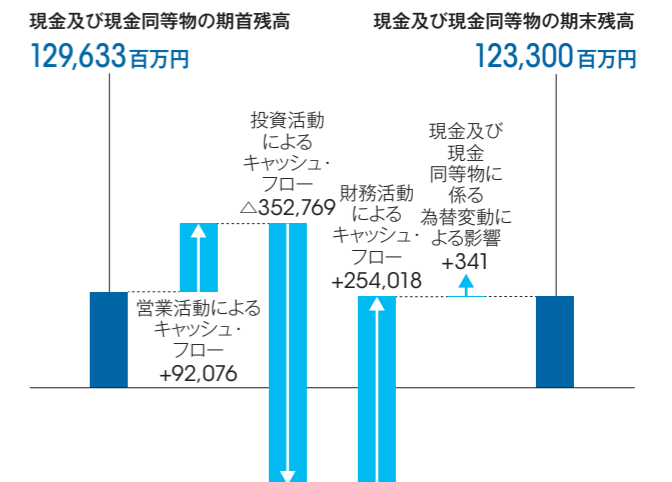
#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による支出は、3,527億69百万円(前期比3,153億29百万円増)となりました。主な要因は、子会社株式の取得による3,186億55百万円の支出、有形固定資産の取得による227億64百万円の支出があったことなどによるものです。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による収入は、2,540億18百万円(前期比2,477億89百万円増)となりました。主な要因は、短期借入金の増加による3,011億78百万円の収入、長期借入金の返済による212億9百万円の支出、配当金の支払いによる267億43百万円の支出があったことなどによるものです。

### キャッシュ・フロー分析



経営成績の分析

資本の財源および資金の流動性

当社グループは営業活動から得た収益が事業活動の財源ともなっており、設備投資や研究開発投資、運転資本充当や配当の支払い、借入金の返済に利用しています。また、持続的な成長の実現に向けた戦略投資に必要な資金需要に対しては、今後の収益見通し、全体的な資金需要、返済能力を考慮して財務規律を維持し外部より資金調達を実施します。2019年度においては、M&A実行のため3,208億52百万円の外部借入を行っており、2019年度末の社債及び借入金残高は当社が3,388億54百万円、連結子会社が1,033億42百万円となっています。また、2019年度末の運転資本は1,524億27百万円となっています。2019年度末の現預金残高は1,233億円と

なっており、当社の現預金保有残高は407億51百万円、国内子会社の現預金保有残高は28億75百万円、海外子会社の現預金および換金性の高い有価証券の合計額は796億73百万円となっています。国内子会社の現預金はCMS(キャッシュマネジメントシステム)によって当社が集中管理しています。海外子会社の保有する現預金は、主として現地での拡大再生産のために利用する事を目的として保有しており、余剰資金が発生した場合に通常配当とは別に特別配当として資金を回収しています。現時点で当社グループの事業活動を円滑に維持して行く上で十分な手許資金を有しており、将来の資金需要に対しても不足が生じる懸念は少ないと判断しています。

セグメント別業績

セグメントの状況は次の通りです。なお、2019年度第3四半期より、報告セグメントとして「オセアニア」を追加しています。

日本

自動車用塗料の売上収益については自動車生産台数が堅調に推移するなか、消費増税の影響や製品の輸出が減少したものの、前期並みとなりました。工業用塗料の売上収益については、前年に発生した自然災害からの復旧に伴い当期の需要

が増加した一方、第4四半期に発生した災害や増税に伴う市況の落ち込みが影響し、前期並みとなりました。汎用塗料の売上収益については、市況が堅調に推移するなか、リテール領域での拡販に努めたことなどから前期を上回りました。

これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は1,825億85百万円(前期比0.1%減)となりました。また、連結営業利益は2019年4月に公表した企業買収に関連し株式取得関連費

用を計上したことなどから369億90百万円(前期比15.2%減)となりました。この連結営業利益には海外グループ会社からの受取配当金135億85百万円(前期は140億12百万円)が含まれております。なお、この受取配当金は内部取引であるため、セグメント間取引消去その他の調整額として全額消去されます。

アジア

自動車生産台数が中国およびインド、タイで前年実績を下回ったことから、自動車用塗料の売上収益は前期を下回りました。アジアの主力事業である汎用塗料の売上収益については、シンガポールなどにおいて市況が低調に推移した一方で、中国において主力である住宅内装用塗料の販売促進活動に注力したことや、建築外装用塗料の売上収益が好調に推移したことから、前期を上回りました。

これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は3,592億13百万円(前期比1.0%増)、連結営業利益は、原材料価格が下落した一方、円高の影響や前期に中国で環境規制に伴う工場退去の補助金収入などがあったことに加え、インドの自動車事業会社において減損損失を計上したことなどから507億69百万円(前期比3.1%減)となりました。

オセアニア

2019年9月からのDuluxGroup Limitedの損益を当社グループの連結業績に反映しています。汎用塗料事業および塗料周辺事業については、豪州の新築住宅市場が軟調に推移

するなか、販売促進活動やシェア増加により、堅調に推移しました。

これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は475億78百万円、連結営業利益は58億61百万円となりました。

米州

自動車用塗料の売上収益については、中核地域であるアメリカにおいて自動車生産台数が低調に推移したことなどから前期を下回りました。汎用塗料の売上収益については、高付加価値商品の拡販や店舗数の拡大により前期を上回りました。

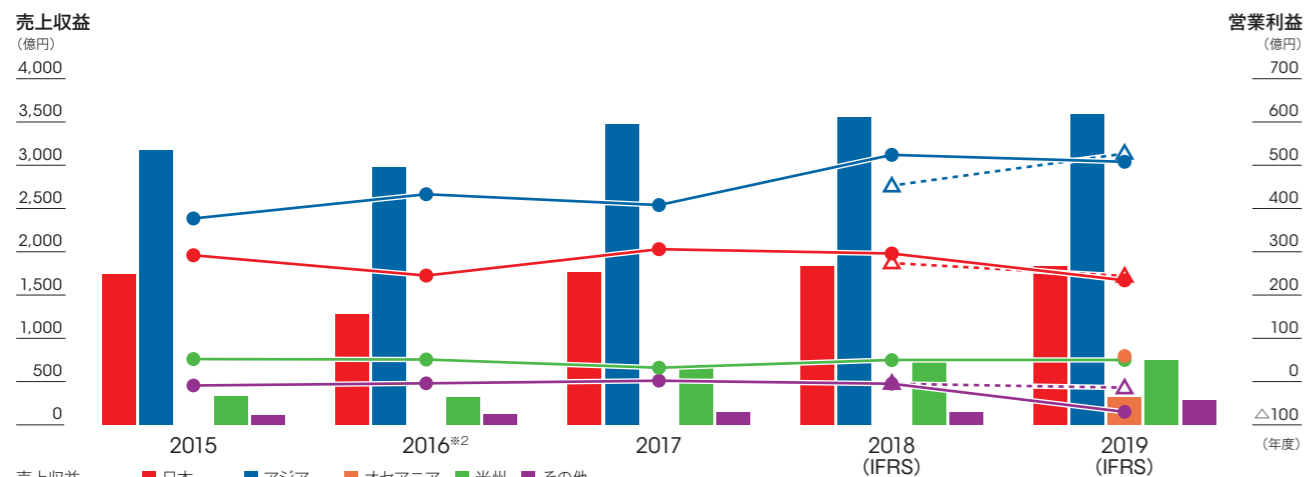
これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は746億18百万円(前期比0.8%減)、連結営業利益は汎用塗料におけるプロダクトミックスの改善等により50億10百万円(前期比0.4%増)となりました。

その他

自動車用塗料の売上収益について、域内の自動車生産台数が低調に推移したことに加え、円高の影響があり、前期を下回りました。また、2019年7月からのBetek Boya ve Kimya Sanayi Anonim Sirketiの損益を当社グループの連結業績に反映しており、同社の業績は堅調に推移しました。

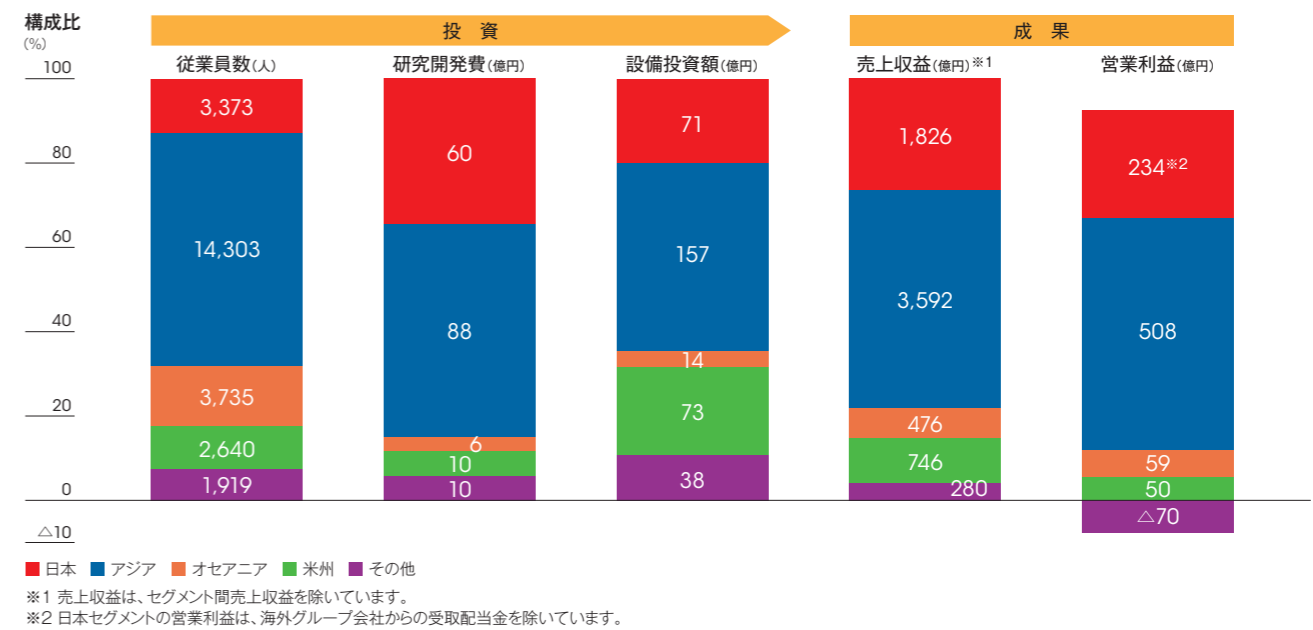
これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は280億12百万円(前期比101.5%増)、連結営業損失は欧州自動車事業会社グループにおいて減損損失を計上したことにより69億72百万円(前期は5億29百万円の営業損失)となりました。

セグメント別売上収益・営業利益の推移



※1 売上収益は、セグメント間売上収益を除いています。  
 ※2 2016年度の日本セグメントの売上収益は、決算期変更により、4月1日から12月31日までの9カ月間となっています。  
 ※3 日本セグメントの営業利益は、海外グループ会社からの受取配当金を除いています。  
 ※4 実質値は為替影響・補助金・M&A費用・減損損失を調整しています。

セグメント別投資対成果



※1 売上収益は、セグメント間売上収益を除いています。  
 ※2 日本セグメントの営業利益は、海外グループ会社からの受取配当金を除いています。